あなたの会社は「忙しさを利益に変える流れ」をつくれていますか？

～成果につながる「流れの設計」チェックリスト～

「毎日忙しいのに、成果が積み上がらない…」
その背景には、必ず「流れの詰まり」があります。

次の項目をチェックして、あなたの会社の『忙しさの構造』を点検してみましょう。

1. 仕事の「流れ」を見える化できているか

- ☐ 主要な工程（営業・設計・調達・加工・検査など）が一覧で可視化されている
- ☐ どこで仕事が止まりやすいかを説明できる
- ☐ タスクが誰に集中しているか把握できている

2. 判断基準が揃っているか

- ☐ 社長・管理者・現場の判断基準が明確で、迷う場面が少ない
- ☐ 「どこまで自分で判断して良いか」が社内で揃っている
- ☐ 例外ルールが少なく、決裁の流れがスムーズである

3. 属人化を減らす仕組みがあるか

- ☐ ベテランの暗黙知（作業ポイント・品質確認・典型的なトラブル）を整理している
- ☐ 写真・動画・作業書など、再現性を高める仕組みがある
- ☐ 新人でも一定品質で仕事が進められる状態になっている

🔎 自己診断の方法

- 各項目で「はい」と思えばチェックを入れてください
- 合計チェック数で、今の状態を確認できます

📊 判定と改善アドバイス

8〜9 個：流れが「利益を生む構造」として機能している状態

⇒ 詰まりが少なく、仕事が前に進む設計ができています。

今後は、作業の流れをもう一段細かく分けて、「どこを改善すれば仕事がよりスムーズに流れるか」を明確にすることがポイントです。

たとえば、手待ちが多い工程・判断に時間がかかる工程など、流れを止めている部分から順に見直すことで、改善の効果が一気に高まります。

4〜7 個：部分的に詰まりがある状態

⇒ 流れ自体はあるものの、「どの順番で進めるか」「誰が何を判断するか」といった基本的なルールが曖昧なために、仕事が滞りやすい状態です。このような状態では、担当者間で判断や進め方がバラつき、同じ仕事でも人によって「進む速度」が違ってしまう という問題が起きやすくなります。

まず取り組むべきことは、

1） 仕事の流れ（工程の並び）

2） 判断の流れ（どこで誰が判断するか）

この 2 つを「1 枚に整理して見える化」することです。

これにより、どの工程で仕事が止まりやすいのか、誰の判断待ちがボトルネックになっているのか、手戻りがなぜ起きているのか、といった 具体的な詰まりの原因が見えるようになり、改善すべきポイントが自然に浮かび上がります。

0〜3 個：詰まりが慢性化している状態

⇒ 忙しさの原因が構造的に放置されている可能性があります。

最初の一歩は、社内の「最も止まりやすい仕事」を 1 つ書き出すこと。そこから『流れを変える改善』が始まります。

💡 活用のポイント

このチェックリストは、経営者が「忙しさの構造を整える役割を果たせているか」を確認するためのツールです。流れを整えると、手戻りが減り、スピードが上がり、余白が生まれ、利益は自然に積み上がります。